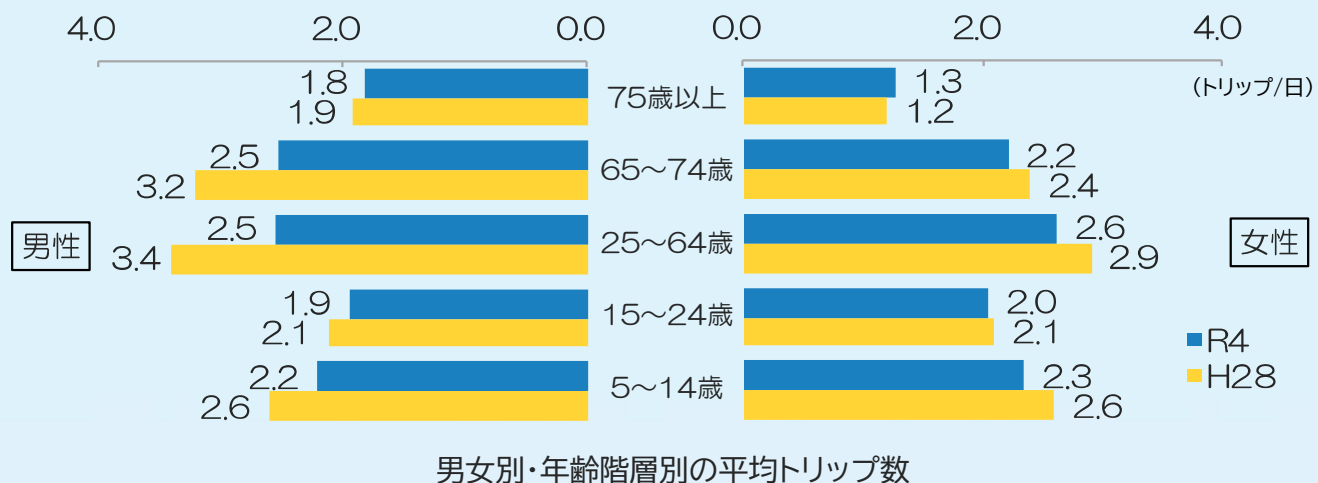
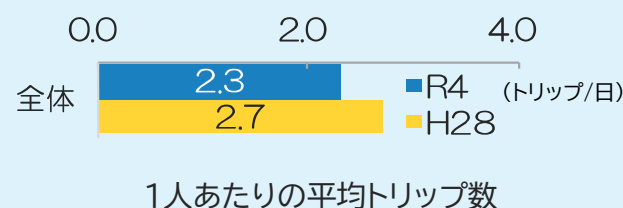


新潟市民の1人あたりトリップ数

平均トリップ数が0.4トリップ/日減少!

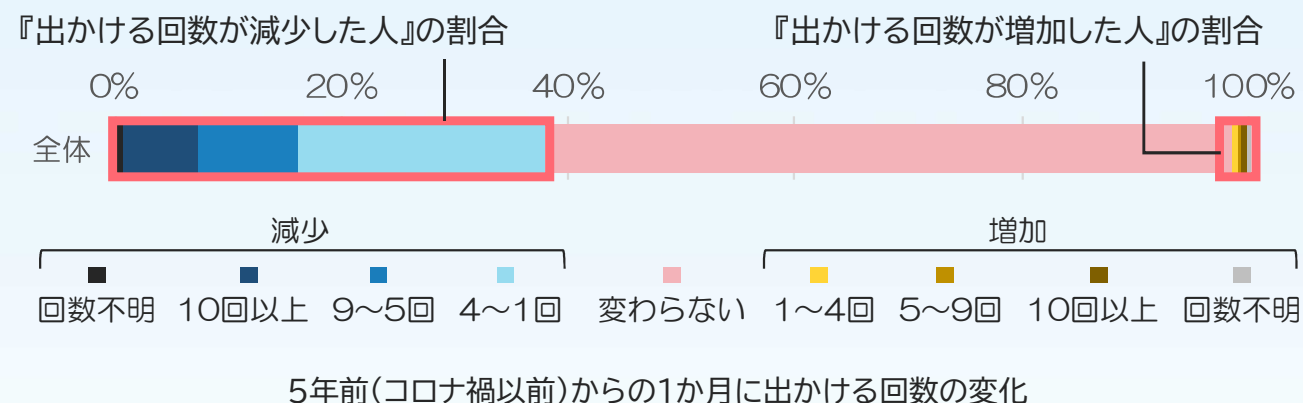
- 1人あたりの平均トリップ数は、2.7トリップ/日から**2.3トリップ/日に減少**しました。
- 男女別・年齢階層別にみると、平成28年はトリップ数が多かった**男性の25～74歳の減少が大きくな**っています。



5年前(コロナ禍以前)からの出かける回数の変化

出かける回数が減少!

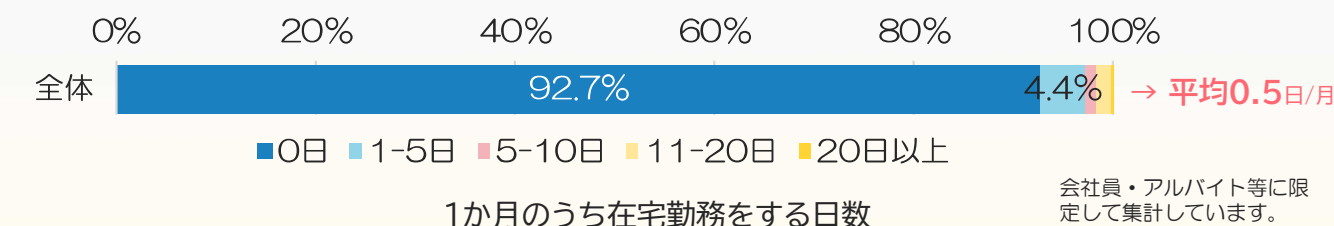
- 5年前に比べて『出かける回数が増加した人』は1.4%と少ない一方で、『**出かける回数が減少した人**』は**38.0%**と多くなっています。
- この結果、外出率や1人あたりトリップ数が減少したものと考えられます。



新潟市民の在宅勤務の実施状況

在宅勤務はあまりされてない!

- 92.7%の人は在宅勤務を実施しておらず、平均すると1か月のうち在宅勤務をする日数は**0.5日**となっています。



会社員・アルバイト等に限定して集計しています。

にいがたの人の動き

新潟市内都市交通特性調査の結果 [概要版]

都市交通特性調査の概要

都市交通特性調査とは、ある1日における新潟市内の人の動き（移動目的や手段など）をアンケート調査により把握し、市民の移動回数や外出率、移動目的・手段などをとりまとめたものです。

- ◆調査範囲 新潟市全域
- ◆調査対象 令和4年4月末日現在の住民基本台帳に登録される5歳以上の市民
- ◆配布世帯 19,600世帯（無作為による世帯抽出）
- ◆実施方法 郵送による配布、回収
- ◆対象日 令和4年11月15日(火)、16日(水)、17日(木)のいずれかの指定

5歳以上人口 (R4.4)	対象世帯数	対象個人数	回収個人数
750,087人	19,600世帯	41,369人	12,182人
抽出率		回収率	
5.5%		29.4%	



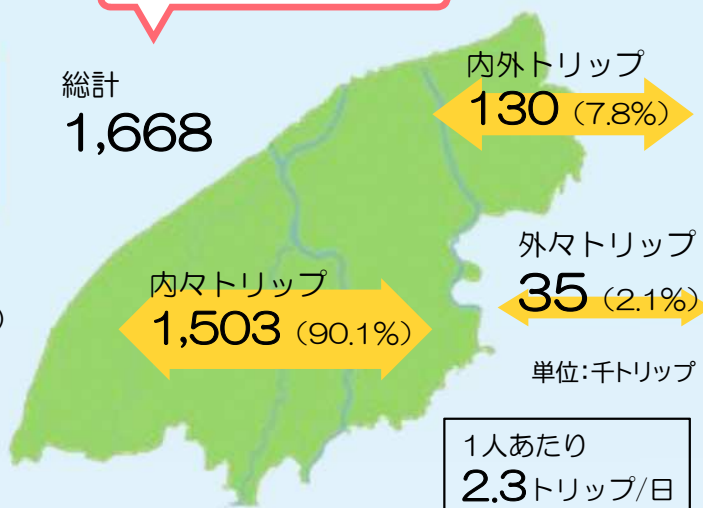
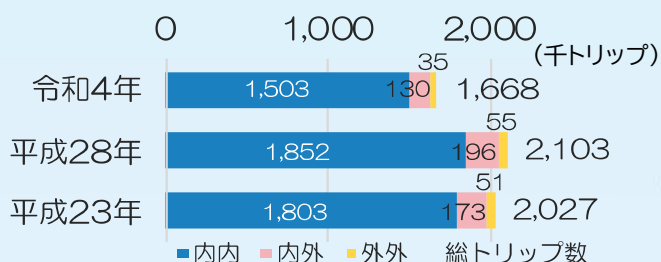
新潟市内都市交通特性調査 結果概要

本調査結果の概要を以下に示します。
 少子高齢化の進展やコロナ禍の影響を受け、市民の移動特性に変化が生じていることを示唆しており、さらに詳細な分析を進め交通施策の展開に取り組んでいきます。

新潟市居住者の総トリップ数

- 総トリップ数はコロナ禍の影響もあり、**令和4年には減少**しています。
- 総トリップ数のうち、**内々トリップが約9割**を占めています。

総トリップ数が減少！

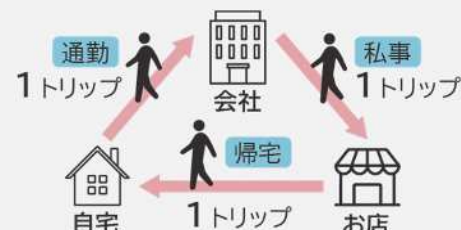


新潟市居住者の総トリップ数

総トリップ数の内訳

トリップとは..

- 人がある1つの目的をもって、ある地点から別の地点へ移動したときの単位。
- トリップは、移動の目的が変わるごとに1つのトリップと数える。
- 【内々トリップ】市内に出発地と到着地を持つ移動
- 【内外トリップ】出発地または到着地のいずれかが市内である移動
- 【外々トリップ】市内に出発地と到着地を持たない移動

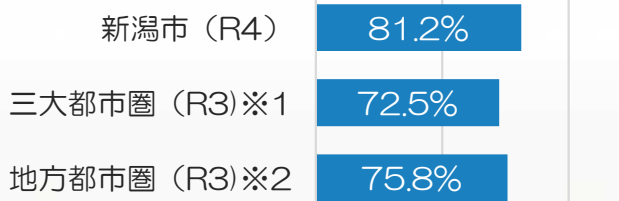
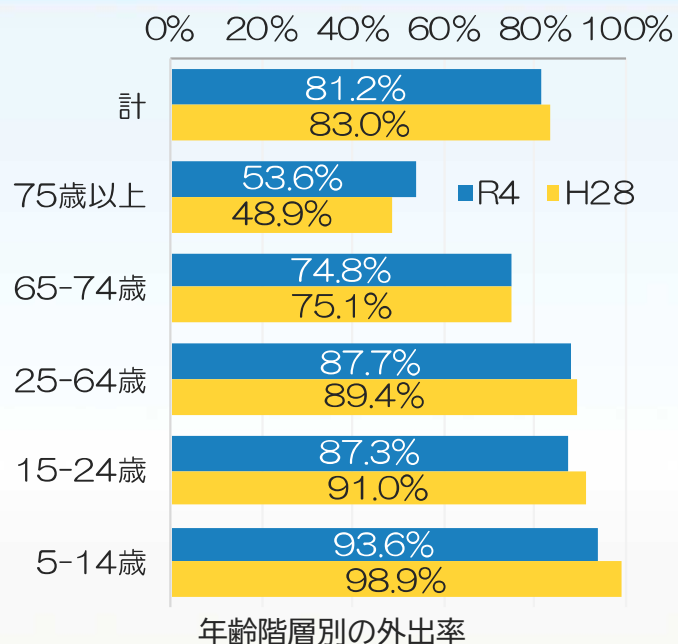


用語解説

外出率

高齢者の外出率が増加！

- 平成28年と比較すると、全体の外出率は低くなっているなか、**高齢者の外出率が増え、元気な高齢者が増えている**と言えます。
- 新潟市は、他都市に比べると**外出率が高くなっています**。



※1 全国都市交通特性調査による三大都市の平均値
 ※2 全国都市交通特性調査による地方都市の平均値

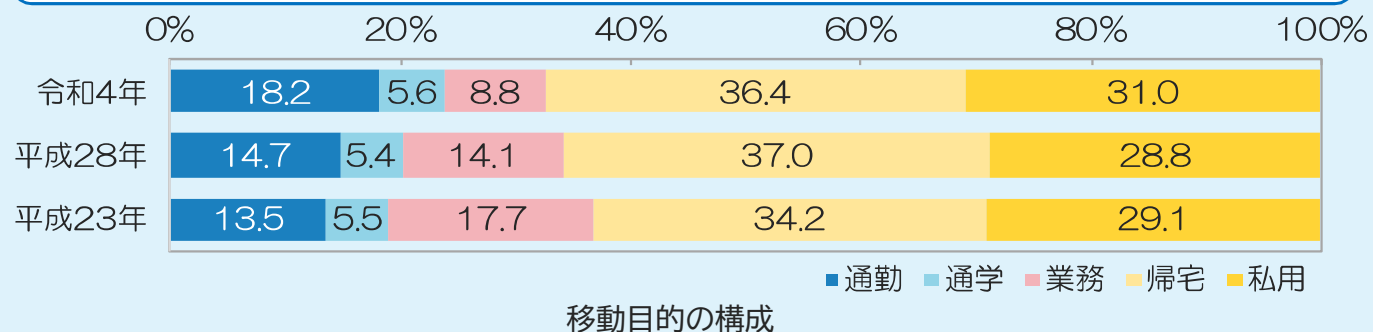
用語解説

外出率とは..
 ・ある1日において外出した市民の割合

移動目的構成

通勤目的が増加、業務目的が減少！

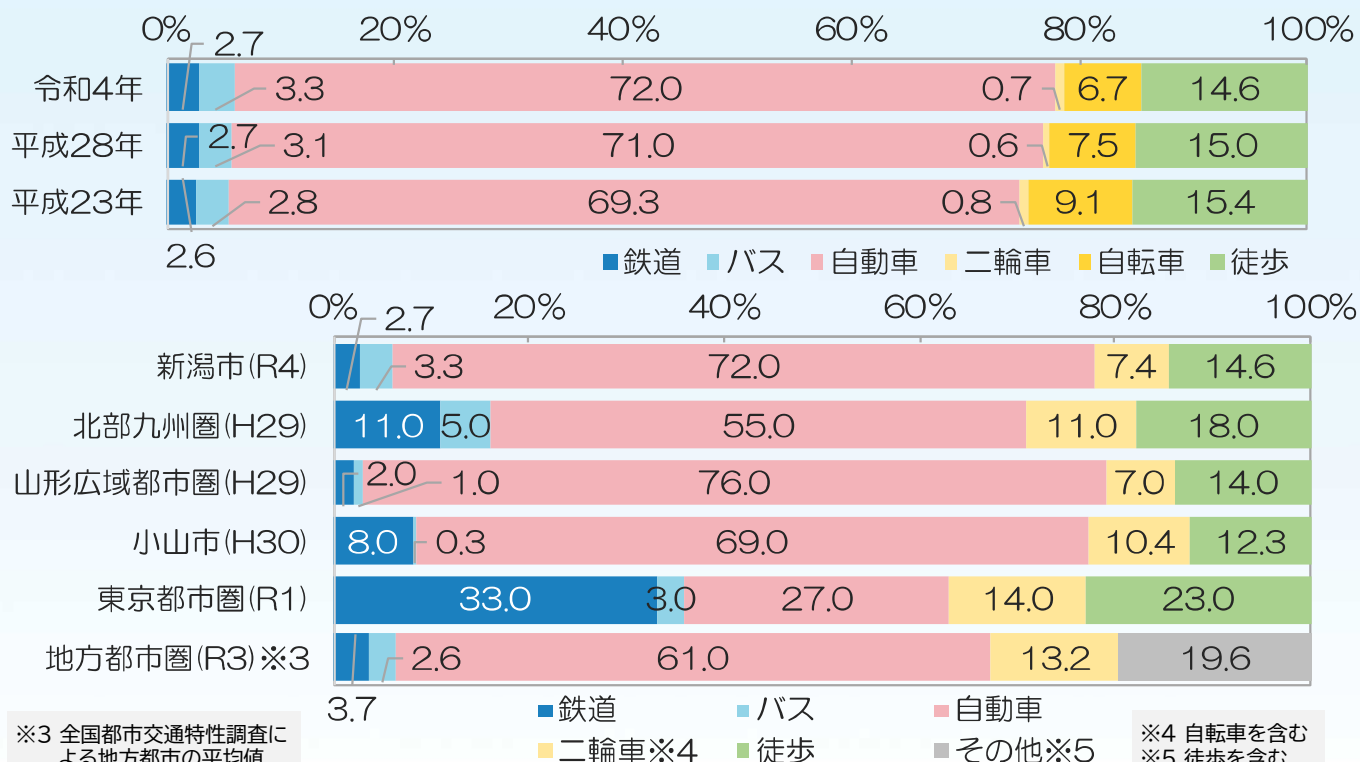
- 総トリップ数が減少する中、**通勤・通学**の必要なトリップの比率が増加しています。
- コロナ禍で**リモート会議等の活用**が増えたことで、業務が減少したと推察できます。



代表交通手段分担率

バス・自動車が増加、自転車・歩行者が減少！

- コロナ禍の影響もあり、総トリップ数が減少する中で鉄道やバスよりも特に**自動車**が選ばれる傾向が強くなっています。
- 地方都市の中でも自動車の分担率が高く、その結果として、**自転車や歩行者の分担率が低くなっています**。



※3 全国都市交通特性調査による地方都市の平均値

目的別代表交通手段の構成

用語解説

代表交通手段とは..

- 1つのトリップの中でいくつかの交通手段を利用している場合、利用した主な交通手段のこと。
- 代表交通手段の集計上の優先順位は、鉄道→バス→自動車→二輪車→徒歩となる。

